

---

# 神話なう。

華桜 蓮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神話なう。

### 【Nコード】

N5489Y

### 【作者名】

華桜 蓮

### 【あらすじ】

水羽高校に通うごく普通の女子校生、桜月天音は、ある日空から突然降ってきた一本の喋る剣によって、それはもう色々様々な事に巻き込まれていきます。恋愛あり、シリアスあり、コメディあり、もうなんでもありです（笑）一部を除いてあとは全てオリジナルです（一部ギリシア神話などから天使、悪魔などの名前、設定などを使っています。）

## プロローグ 追憶（前書き）

この物語には、バトルシーンがあり、残酷というかグロイ文章表現がありますので、そういうのがニガテな方はお気を付けて下さい。

## プロローグ 追憶

はじめまして、華桜 蓮です。

小説家になろうを使うのはこれが初めてです。

そして思いつきり初心者です（恥）

文章能力もまだなのですが、それでもよければよろしくお願いします。

## プロローグ

> ちよつと、いつまで寝てるの？早く起きないとアタシからのアツ  
ーイ朝のお目覚めキッス、しちゃうわよお？<

頭の中に直接声が響く。．．．朝からこのセリフ．．．頭がイタイ  
というか．．．ちよつとキモイ．．．

この声の主が本当にキス出来るわけないんだけど、なんかされそう  
というか．．．ほとんど無意識で起きる。

>アラ、起きちゃったのお？．．．．．チツ<

．．．最後の“チツ”は聞こえなかったことにして、私は声の主を  
手に取る。

私の運命を大きく変えることになった一番の原因である一本の剣を。

>どおしたの？イヤな夢でも見た？<

「．．．ちよつと、思い出してただけ。」

この剣と出会ってからそれはもう色々様々な事に巻き込まれてきた  
わけで。

思い出の一つや二つや三つや四つetc．．．

>．．．アタシと出会ったコト、後悔してる？<

．．．いきなりなんて質問するのよ、アナタは。後悔なんて．．．

「後悔なんてするわけじゃない。むしろ感謝してるくらい。」

何度もキケンでアブナイ目に遭ってたけど、その度に何度も守って

もらっていたし。

とっても個性的で、かなり変わってて、とっても強い七人の天使達と、この剣に。

だから後悔なんて一度もしていない。後悔なんて・・・ありえない。

>・・・そう・・・よかった。<

・・・てか、勝手にマスターにしといて今更な気もするんだけど・・・まあ良いか。

ベッドから起きてカーテンを開ける。

今日の空は、あの日の空によく似ていた。

## 第一話「空から剣って降って来ると思いますが？」

この小説を読んで下さっている方にお知らせです。

実は私、まだ中学生3年生でして、中学3年の今頃ってことはもちろん受験生でして、小説なんて書いてる暇あったら受験勉強しろってわけでした・・・

というわけで、休憩時間に書けたら書きますが、投稿がかなり遅れたり、下手したら受験終了日まで休止にさせていただくことになるかも・・・

まあ、受験生なのに小説書いてる私が悪いんですけど。認めますけど。100歩譲って認めちゃいますけど。

というわけで応援と合格祈願していただけると非常にうれしいです。ありがとうございます。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

私、桜月天音は今、真実を受け入れるか全力で無視して見なかったことにするかでとても悩んでいます。

さて、今この物語を読んで下さっている方に質問です。第一話のタイトルの通り、空から剣って降ってくると思いますか？

・・・降ってきませんよね、普通なら。でも私の目の前にはたった今空から降ってきたばかりの一本の剣があるんです。

こーなったらもう・・・

「あー、おそらがきれいだなー（棒読み）」

現実逃避。

だがどんなに全力で無視して見なかったことにしようが現実逃避しようが、目の前にある剣が幻のように消えて無くなるわけではない。それに・・・

ちよつとそのアナタ！ブーツとしてないでアタシを助けなさいよ！地面にすっぽりはまっちゃって抜けないの！

・・・さてさて、またここでこの物語を読んで下さっている方に質問です。・・・剣って喋ると思いますか？日本語でも英語でも、中国語でもフランス語でもイタリア語でもなんでもいいですけど・・・人の言葉を、“剣”が喋ると思いますか？

・・・喋りませんよね、普通なら。でも目の前にある剣はフツーにペラペラ喋っちゃってるし。



この“剣が空から降ってきた事件”発生前のこと。私はいつものようにこの学校、水羽高校に通いいつも通りのスクールライフを送っていた。そして昼休み。これもまたいつも通り裏庭に行った。行っただけではないが、そこで“剣が空から降ってきた事件”発生。現在に至るというわけである。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

「今日もいい天気だな・・・」

空を見上げてそう呟く。雲一つない晴天。

キラッ

視界の端で何か光った。何だろうと思ってじっと見つめていると、何かがだんだんこっちに向かって近づいてくる。

・・・ものすごいスピードで。あまりの速さに反応できない。

ドスッ

何かがいっきりに地面に突き刺さった。

・・・剣だった。

・・・何故に空から剣？と思った。真実を受け入れるか、全力で無視して見なかったことにするか迷っているうちに、

ちよつとそこのアナタ！ボーツとしてないでアタシを助けなさいよ！地面にすっぽりはまっちゃって抜けないの！

頭の中に直接声が響く。

・・・喋った・・・喋ったよこの剣・・・

ちよつとそこのアナタ！まさかこのままアタシをここに置いていくつもり！？イヤーツお願いだから助けてええ！ヘルプミイイイッ！

・・・うるさいやかましい。今私の頭の中、ヘルプミイイイッ！  
・・・ヘルプミイイイッ！てめっちやエコーしてるんですけど。

とりあえずこれ以上騒がれると迷惑なんで、剣の柄に手をかけて思いつき引き抜く。

スポッ

抜けた。そしてフワリと浮いた。

・・・剣が浮いた・・・

ふう、助かったあ。・・・って・・・いにやあああああ  
ああっ！

いにやあああああつ！・・・・・・いにやあああああ  
ああつ！と私の頭の中でまたエコー。・・・・てか、叫び声がオカシ  
イ。

ちょっとアナタ、アタシの念話こえが聞こえるの？

「・・・・もろクリアで聞こえてるんですけど。」

はっ！思わず声に出して言ってしまった！裏庭こが人があんまりこ  
ない場所だよかった。アブナイアブナイ。

ウソツ！信じらんないっ！アタシの念話こえが聞こえるなんてっ！

・・・・私としては別に信じてもらわなくても全っ然OKなんですケ  
ド。

・・・・アナタ、名前は？

「・・・・桜月天音。」

桜月天音・・・・イイ名前ね。

それはどーも。

決めたっ！決めたわっ！

・・・・そろそろ疲れてきた・・・

アナタをアタシのマスターにするわ！桜月天音！

・・・はい？What？Why？Wait？Wait．

「・・・あの、それってどーゆーイミですか？」

そのまんまのイミよ！今からアナタはアタシのマスター。アタシはアナタのモノになったってコトよ！

・・・Why？Wait・・・ウエエエイトツツ！

「ちょっと待つて！Why？何故私なの？Wait！待つて！銃刀法違反っ！」

んじゃ、契約開始っ

つてちょっと待てええいつ！話を聞けええいつ！

万物を統べ神々の頂点に達する者より授かりし力を汝に与える

この契約は汝の生命の灯火が消えゆく瞬間まで継続される

その瞬間<sup>とき</sup>まで

我は汝に力を貸そう

汝は我と共に

我は汝と共に

汝が望む勝利を

我は与えよう

目を開けていられないほどの強烈な光がほとばしる。勝手に契約<sup>てつぎ</sup>するなあああっ！という私の叫び声もゴォオォオォという爆風の音に掻き消される。しばらくすると光と爆風が止んだ。

・・・あの剣の姿が何処にもない。・・・一体何が起きたの？

契約<sup>てつぎ</sup>完了ね

姿は見えないけど、念話<sup>こえ</sup>だけはしっかり聞こえる。

両手の甲を見なさい

言われた通りを見る。そこには不思議な模様というか・・・明らかに魔方阵っぽいものが描かれていた。

魔<sup>それ</sup>方阵がアタシとの契約<sup>けいやく</sup>の印<sup>いん</sup>よ アタシのコトは・・・そうねえ・  
・ “恋華<sup>れんが</sup>十六夜桜<sup>いざよひざくら</sup>” って呼んで？

恋華十六夜桜<sup>こえ</sup>って・・・あなたどー聞いても“男”よね？だって聞こえてくる念話<sup>こえ</sup>がめっちゃ低音<sup>テノール</sup>だし。しかも“アタシ”って・・・まさか・・・オカマ？

あ、今アタシのコト“男”とか思ったでしょ！契約<sup>けいやく</sup>するとマスターと繋がるコトになるから多少はマスターの感情とかココロの声が聞こえたりするんだから！

・・・なんつー機能持ってるの・・・

声とか男でも、ココロは立派な乙女だもの？

・・・オカマ確定。

はー、もうなんか色々と疲れる・・・って、

「・・・ちょっと待って。この契約<sup>けいやく</sup>の印<sup>いん</sup>って、私以外に見えたりするの？」

そうよ！それが一番重要よ！こんなの、世間一般から見れば“イレズミ”（彫<sup>う</sup>ってないし墨でもないから違うけど）にしか見えないわ！

大丈夫よゝ・・・・・・・・たぶん。

・・・最後の三文字を私は聞き逃さなかった。

「たぶん」って何よ“たぶん”って！」

だあってえゝ、アタシにとってこれが“初”<sup>けいやく</sup>の契約だったんだものゝ。つまりいゝ、なにもかも初めてだからあゝ・・・・・・・・アタシにもよくわからなあゝい

・・・・・・・・“よくわからなあゝい”ですむかあああつ！

とりあえず、試しに誰かに見せてみれば？

恋華十六夜桜・・・・・・・・もう長くてメンドクサイから以下恋華で呼ぶことにするけど、恋華が言い終わったと同時にちようど昼休み終了のチャイムが鳴った。教室に戻って、親友の瑞樹<sup>みずきのな</sup>瑠奈やクラスメイト達に見せてみたけど、どうやら私にしか見えていないみたいだからとっても安心した。

「席に着けゝ、授業を始めるぞゝ。」

社会・歴史担当の尾崎<sup>おさき</sup>竹田先生が来た。私は授業そつちのけで色々考えていた。

この、私と恋華十六夜桜との出会いが

私と、天空そらと大地の運命を

大きく変えることになるとは

このときの私には

まったく想像もできなかった。

そして、後に私は知る事になる。

恋華十六夜桜の

存在理由を。







## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5489y/>

---

神話なう。

2011年11月23日13時54分発行